

あわみなと通信

暮らしを支える港湾と空港の話

報告 総合防災訓練の実施

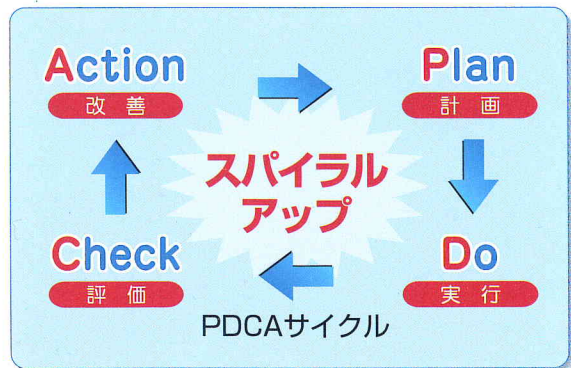
地形や地質、気象・海象条件等の面で厳しい自然環境下にある四国の太平洋沿岸は、台風や豪雨により、浸水や地すべりなどの自然災害が発生しやすく、また、今後高い確率で起こりうる東南海・南海地震でも、大きな揺れと津波による甚大な被害が予測されます。これらの被害の軽減を図るには「平素からの災害に対する備え」とともに、「災害時の迅速かつ適切な避難を含む防災活動」が重要です。

徳島県内でも9月1日の防災の日に、自治体や自衛隊、四国地方整備局など各機関で総合防災訓練を実施しました。徳島県と自衛隊や海上保安庁は、県南地域が被災で孤立した状況を想定して、海上からの救援物資輸送等の合同訓練を、四国地方整備局では職員の参集から、四国全域での道路・河川・港湾等の点検と被害情報の収集・伝達、応急対策にいたる手順等を想定した訓練を行いました。

大規模災害をイメージした実際の行動により、参加者各位が被災時の初動動作を身につけ、浮かび上がる課題に対応しながら、組織全体としてより効果的な防災体制へのスパイラルアップを目指します。訓練での反省を踏まえ、PDCAサイクル（Plan Do Check Action：計画、実行、評価、改善）によって、更なる防災強化に取り組めます。



防災訓練状況（四国地方整備局 災害対策室）



INDEX ▶

- みなと報告・・ 1
総合防災訓練の実施
- みなとインフォメーション・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
撫養港海岸保全施設整備事業
- なるほどみなと講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
防災について（自助、共助、公助）
- みなと通信・・ 4
告知「小松島みなとオアシス防災訓練（10月10日）」
告知「津波と暮らしと安全を考えるセミナー（11月13日）」

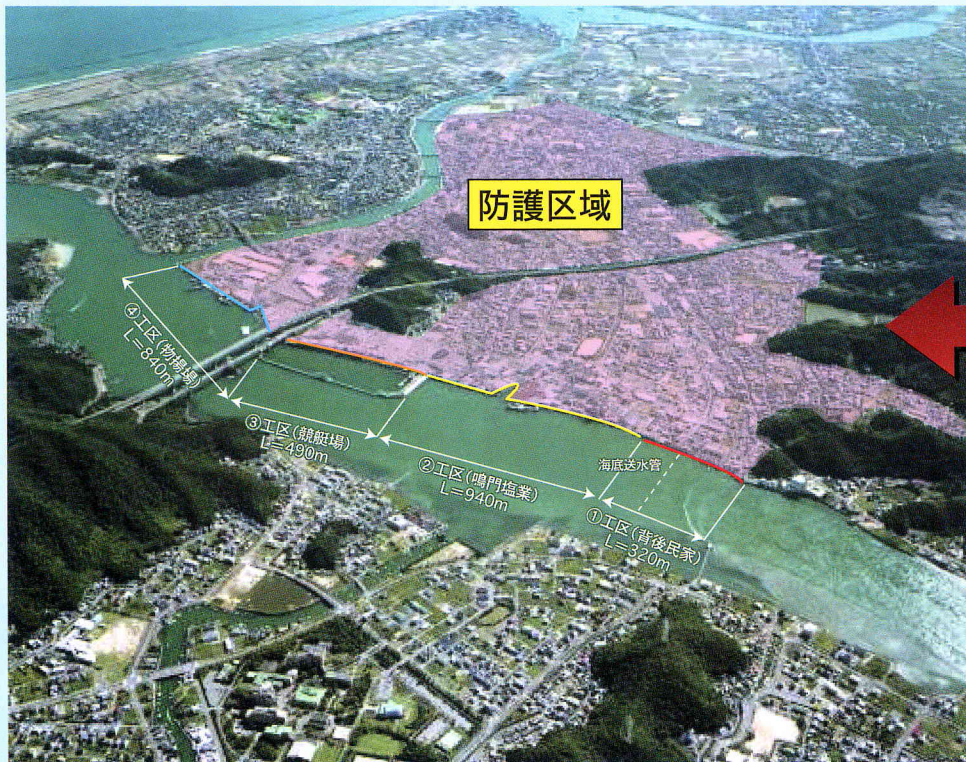
撫養港海岸保全施設整備事業

鳴門市の撫養港海岸では、今後高い確率で発生が予測される東南海・南海地震の津波被害から地域を守るため、堤防の嵩上げや、堤防周辺地盤の液状化対策工事を平成19年度から現地着手しています。本事業は総延長2,590mのエリアを4つの区間に分割して、西側の①工区(背後民家)より順次事業を進めています。

現在、①工区においては、中央付近にある海底送水管部と黒崎水門近傍の改良を残し、ほぼ工事が完了しています。②工区(鳴門塩業)の水際線の護岸工事は、平成22年度より本格的に現地着手したところです。平成23年度からは、④工区の海上地盤改良に着手する予定です。なお、③工区(鳴門競艇)の整備については、地元関係自治体と調整しながら、整備の方針等を今後決定していきます。

事業採択時に、海岸事業の費用便益分析に基づく事業評価(新規事業採択時評価)を行っており、そこでは、津波シミュレーションを行った結果、本事業によって津波被害から守られる人口:約12,600人、防護面積:330haとなり、全事業費の約3.2倍の便益が得られる分析結果となっています。

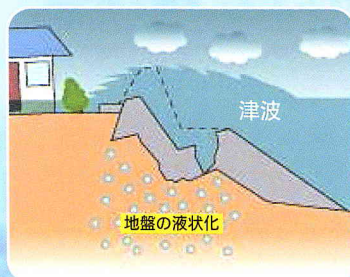
事業着手後一定の期間(3~5年)を経た際にも、経済情勢の変化等に適切に対応する為、継続的にその事業の妥当性の評価(再評価)を行うこととなっており、本事業では平成23年秋に背後の資産価値等を見直して再評価を予定しています。



堤防背後の貴重な
生命財産を守ります

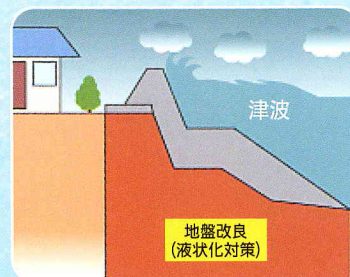
事業概要

総事業費	135億円
事業期間	H18~H27
事業延長	2,950m
B/C	3.2



整備前

整備イメージ



整備後



ぼくの名前は「こまぼん」。小松島港湾・空港整備事務所のマスコットキャラクターだよ。タヌキの耳としっぽが目印。一般公募によって名前がつけられたんだ。


—第22回— 防災について（自助、共助、公助）

職場、学校など様々な場所で、防災について学ばれていると思いますが、皆さん一人ひとりがもう一度身の周りで起こる災害について考え、災害に対する備えに取り組むために、今回は、「防災」について紹介します。

「防災の日」について
 毎年9月1日は防災の日。1923年9月1日に、「関東大震災」が起きました。この震災の教訓を忘れないという意味と、この時期に多い台風に対する心構えの意味も含め、1959年9月の「伊勢湾台風」襲来の翌年1960年に閣議了解されました。

「自助」、「共助」、「公助」について


あまり聞き慣れない言葉かもしれませんが、意味は下のとおりです。それぞれが、役割を十分に果たすとともに、相互の密接な連携が大切です。

自助 

自らの生命・財産は自らで守る。

誰でも被災する可能性はあります。自分たちの命は自分で守ることが大原則であり、平常時から安全確認、防災知識の習得、災害時の備えなど出来る所から手を付ける事が大切です。

各家庭では、家具の転倒防止などの安全対策や、避難場所と経路の確認、家族の安否確認方法などを話し合っておくことが被害を少なくする方法の1つです。


共助 

自分たちの地域は自分たちで共に支え合う。

被災直後の近隣住民同士が力を合わせて、救出・救護、初期消火、安全な避難などができる組織作りが必要です。

自主防災組織がない場所では、関心のある人が集まり、自治会などの住民組織を母体に結成することをお勧めします。市町村などの防災窓口にご相談することも1つの手です。

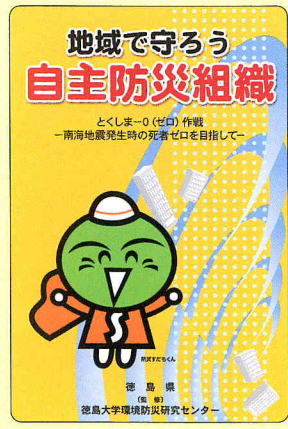
平日頃より近隣住民とのつながり、コミュニケーションが大切です。

公助 

行政が地震や津波に強い社会づくりを進める。

インフラ整備により、地震や津波などの災害に強い社会、国土作りを進める一方、各住居への「耐震診断」、「耐震補強」等の各種助成も行っています。

各自治体では、災害対策基本法に基づき、地域防災計画を定めています。行政機関が対処すべき事務や業務の大綱、住民の生命・身体・財産等を災害から保護するための総合的な指針や対策がまとめられています。



- 自治体では、防災マニュアルやハザードマップが配られています。避難場所、災害に備えるためのポイントなど事前にご確認ください。
- 左は「地域で守ろう自主防災組織」
 右は「地震から命を守る」
 の広報資料です。
 共に徳島県のホームページに掲載されています。

徳島県防災・危機管理情報 安心とくしま。南海地震。啓発資料 参考URL
http://anshin.pref.tokushima.jp/normal/earthquake/news.html?cid=earthquake_edification



小松島みなと オアシス防災訓練

開催日 **10/10** 9:00~12:00

東南海・南海地震に備え、日本赤十字社徳島県支部が毎年行う「船舶奉仕団」(小型船舶を有するボランティアグループ)による海上物資輸送訓練に合わせ、「小松島みなとオアシス」にて炊出し等の自主防災訓練を開催します。

主な訓練内容は、海上から陸揚げされた緊急物資等の運搬、仕分け、地震による停電・断水を想定した被災者への水の配給、食事の提供等を行います。また、地域の自主防災に役立つ防災関連の展示等を予定しています。

当日は、しおかぜ公園にて「リレー・フォー・ライフとくしま2010」(がん患者を支援するチャリティイベント)も開催される予定なので、皆様是非、小松島みなとオアシスへ足を運んで下さい。



救援物資海上輸送訓練



津波と暮らしと 安全を考えるセミナー

開催日 **11/13** 14:00~16:30

撫養港海岸(黒崎・里浦地区)の海岸整備事業が事業開始から5年目を迎えています。市民や地元防災担当の方々に、津波の怖さや沿岸防災に対する備え、津波被害の効果的な減災対策などを知っていただくため、標記のセミナーを開催します。

四国地方整備局小松島港湾空港整備事務所、鳴門市、徳島県の共催で、会場は「鳴門地域地場産業振興センター」【鳴門市役所北隣】です。(当日参加も可能。)

津波の驚異と各自で出来るその具体的な対策について学べる良い機会ですので、ふるってご参加願います。

【プログラム】

- 講演1 「津波のメカニズムと驚異」
独立行政法人 港湾空港技術研究所
津波防災研究センター長 高橋 重雄 氏
- 講演2 「地震津波を想定した自治体や住民の防災対応」
徳島大学大学院 教授 中野 晋 氏
- 講演3 「港湾・海岸における地震・津波対策について」
四国地方整備局
港湾危機管理官 日笠 一志 氏

読者の皆様こんにちは、事務所長の河西です。

みなさんは、右下のロゴマークご存じでしょうか？

これは、「みなとオアシス」のロゴマークです。「みなとオアシス」は、港や海岸にある施設やスペースを有効に活用した『にぎわいの場』で、地域の方が中心となって運営する、地域活性化の拠点となっています。徳島県においては、みなと交流センターkocolo(小松島市の旧南海フェリーターミナル)を中心施設として、特定非営利活動法人「港まちづくりファンタジーハーバーこまつしま」が運営しています。この度、当頁の「告知」欄にあるように、この「みなとオアシス」を活用した防災訓練が実施されます。南海・東南海地震等の大規模地震の発生が懸念されるなか、「みなとオアシス」の機能を有効活用して、震災直後の緊急支援活動を行うという、全国的にも珍しい先進的な取り組みです。小松島の「みなとオアシス」には、小型船舶が係留出来るほか、その周辺には駐車場や公園等の十分なオープンスペースがあると同時に、徳島赤十字病院などの医療機関や耐震強化岸壁も近くにあり、災害時の応急対策を補完する役割を担う施設として活用できるものと考えています。普段より、今回のような防災訓練を積み重ね、災害に強い地域づくりに、「みなとオアシス」が貢献できればと思います。



風
NAGI

小松島港湾・空港整備事務所長 河西 博

出前講座の申し込み受付中！

当事務所では、海と空の「みなと」のこと、また当事務所の仕事について、広く皆さんに知っていただくために、出前講座(みなと学習、環境学習、防災学習)を開講しています。

楽しく学べる当事務所の出前講座、現場見学会のご依頼を受け付けています。



出前講座、現場見学のお問い合わせは・・・

当事務所
TEL **(0885)-32-3357**

ホームページ 「暮らしを支える港湾と空港の話」
<http://www.pa.skr.mlit.go.jp/komatsushima/>
よりお問い合わせください。